

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：鹿児島大学（総括責任者：前田 芳實）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

「男女共同参画推進室」に『女性研究者支援センター』を設置し、その中核的役割を担う「コーディネーター」を配置して、『研究支援員制度』、相談体制（『メンター制度』を含む）の整備充実による環境改善のほか、シンポジウム、トップセミナー、キャリア形成セミナー及び交流会の開催、ロール・モデル誌の制作等による意識啓発及び女性研究者の裾野拡大に向けた取組を行う。

(2) 研究を支援する者の配置計画

ライフイベント期にある女性研究者の研究支援員として、大学院生・大学修了者を充てる。
（配置計画案：H23 院生 10 人、H24 院生 15 人・PD^{*}3 人、H25 院生 15 人・PD3 人）また女性研究者等をメンターとして位置付け、支援終了後も研究支援員のキャリア形成支援を継続的に図る。^{*}PD は大学院修了者（ポストドクター等）

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

男女共同参画推進室及び男女共同参画推進センターを設置し、女性研究者を取り巻く研究環境整備や意識改革を進めるとともに、男女共同参画推進室長（理事）と部局長との意見交換（男女共同参画キャラバン）を通して部局との連携を強化し、女性限定教員公募やインセンティブ付与等の効率的なポジティブ・アクションを実施した。特に、理工農学系分野では、テニユア教員の積極的な採用を進めたことから、理工学研究科（工学系）において初の女性限定教員公募を実施するなど、女性教授数の増加に繋がっており評価できる。今後は、取組を継続、発展させ、更なる意識改革により女性研究者の離職の減少を図ることを期待する。

・**目標達成度**：女性研究者採用数、女性教授の在籍数や割合は、ほぼ目標を達成した。しかしながら、女性研究者採用割合、女性准教授・講師の人数や割合等、目標の一部は達成できていない。今後は、部局も含め機関全体として現状を認識し、目標達成に向けた改善策によりさらに成果を上げていくことが望まれる。

- ・ **取組**：女性研究者のニーズを的確に把握し、研究支援員制度やメンター制度の創設、一時保育支援、意識改革に向けたセミナーの開催等を意欲的に行っており、評価できる。
- ・ **取組の成果（システム改革）**：男女共同参画キャラバンなど部局へ直接働きかける取組の成果として、理工農学系部局において女性限定教員公募やインセンティブ付与が実施され、女性教員の積極的な採用が推進されたことは評価できる。
- ・ **実施体制**：学長の強いリーダーシップの下、男女共同参画推進センターに女性研究者支援部会を設置するとともに、各部局に男女共同参画担当責任者を配置し各部局との連携を強化している点は評価できる。
- ・ **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：女性研究者支援において中核的な役割を担うコーディネータの継続的な雇用を始め、研究支援員制度やメンター制度の運用、セミナーの開催など多くの取組が継続されており、評価できる。今後は、学長による人事の一元化が計画されていることから離職の原因分析を図り、より一層の女性教員の採用促進を期待する。